4. 三陸リアス海岸周辺における学校から高台への避難行動

4.1 釜石市鵜住居地区の事例について

今回の津波襲来時の避難行動のあり方として最も注目されていたのは，釜石市鵜住居地区における釜石東中学校・鵜住居小学校の生徒や児童たちの『釜石の奇跡』と称えられた避難行動であろう．子供たちによる自主的かつ積極的な避難行動は，周囲の人々の避難行動をも促しながら，当初に予定されていた避難場所に留まることなく，避難行動の最中にも津波情報を得ながら先へ先へと押し進められ，無事に安全地帯にまで到達している（図 11）．そして，このような避難行動が可能となった背景には，長年に亘る津波防災教育の存在［17］と，昔からの『津波てんでんこ』の思想，すなわち，津波の襲来という緊急時には，仮に家族が別の場所に居る場合であっても，家族も自分と同じ避難行動を取ることを信頼して，それぞれがバラバラに安全な場所に向かって避難するという考え［18］が徹底されていたからであろう．しかし一方において，同じ鵜住居地区では 583 人もの犠牲者が生じている［19］．中でも中心市街地に位置する RC 造 2 階建ての地区防災センターでは，大津波警報に従って駆け込んだ 200 人以上の避難者の大半が津波の犠牲になっており『釜石の悲劇』と呼ばれているそうである．同センターは本来の津波に対する緊急避難場所ではなかったが，避難訓練の目的地としてしばしば利用されていたことに誤解があったのではないかとの指摘も行われている［20］．

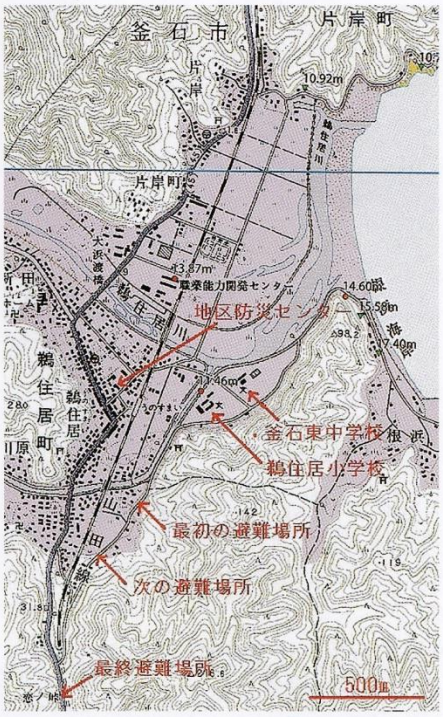

図 11　釜石市鵜住居地区の津波浸水分布
（原口・岩松 [11] による）

4.2 南三陸町立戸倉小学校の場合

教育復興支援センターの先生方からの情報によれば，南三陸町立戸倉小学校でも津波からの模範的な避難行動が行われていたとのことで，ぜひ状況を確認したいと思い現地を訪ねてみた．志津川湾内の小さな平野の中央に位置する戸倉小学校はすでに解体されてなくなっていたが，やはり現地に来てみないと理解できないことがいくつかあって大いに勉強させられた．図 12 に示すように，この地域の津波浸水高は約 20m もあって，戸倉小学校では RC 造 3 階建ての全てが，高台上の戸倉中学校は RC 造 2 階建ての 1 階部分が津波によって被災している．このような状況の中で，戸倉小学校の避難行動は校長先生や教職員の誘導に従って近隣の五十鈴神社に向かって行われ，神社の社内と境内で一夜を過ごしている．五十鈴神社の石段下に設置された東日本大震災記念碑の碑文によれば，「未来の人々へ，地震があったらこの地よりも高いところへ逃げること」との警句に続いて，避難の状況や地域の被災状況についての記述がある．それによれば，五十鈴神社に避難したのは戸倉保育所の園児 18 人，戸倉小学校の児童 91 人のほ

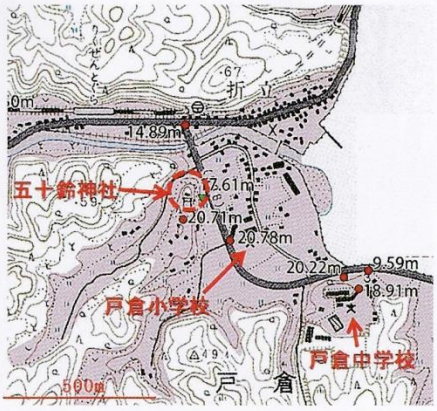

図 12　南三陸町戸倉地区の津波浸水分布
（原口・岩松 [11] による）